



青谷地区まちづくり協議会

だ よ り

第 21 号 令和 2 年 3 月 発行

事務局：青谷地区公民館内

電 話 0857-37-7420

FAX 0857-85-0155



青谷地区まちづくり協議会総会開催

3月5日(木)令和2年度青谷地区まちづくり協議会総会を開催し、役員改選が行われました。その後令和元年度事業報告並びに決算、令和2年度事業計画並びに予算が審議され、全議案が全会一致で承認されました。新しい役員さんには今後2年お世話になります。新役員さんは次の方です。

◆会 長 山根恵（留任）

◆副会長 若木行寿（留任）

小谷健一（新任）

大谷光恵（新任）



◆会計 高野知加（留任）

◆監事 花原 隆（留任） 福市美由紀（留任）

◆事務局長 浜江康雄（留任）

総会後に第1回部会を開催し、それぞれの部会の部会長、副部会長を選任し、令和2年の事業計画を話し合いました。

総会の様子



各部会部会員さん紹介

青谷地区まちづくり協議会の部会は、各町区より推薦された部会員さんと、会長より推薦された部会員さんで構成しています。各部会の部会員さんを紹介します。（敬称略）

地区安全部会

部 会 長 平田光男（緑町）

副部会長 豊田康美（東町）

駅 前	美濃恭介	赤尾谷	吉村美春	東 町	豊田康美
中 町	村中弘之	本 町	安田正美	浜 町	川崎 操
灘 町	村上 清	前 町	山本善明	夏 泊	山下邦雄
西 町	山田正幸	井 手	高浜昭雄	長和瀬	国本由美
緑 町	平田光男	会長推薦	小谷健一		

基本目標 安心して暮らせるまちづくり

- （1）災害に強いまちづくり
- （2）子供たちの見守り活動、環境作り

地区再生部会

部 会 長 田内伸一（西町）

副部会長 池田みどり（本町）

駅 前	鈴木周一	赤尾谷	小林保雄	東 町	吉村 厚
中 町	浅尾成則	本 町	池田みどり	浜 町	花原伸幸
灘 町	岸本行正	前 町	関 克則	夏 泊	山本恭信
西 町	田内伸一	井 手	田中秀美	長和瀬	山田繁満
緑 町	倉本 仁	会長推薦	若木行寿	会長推薦	花原 隆

基本目標 地域の歴史と文化を活かしたまちづくり

- （1）地域に残る文化財の保存と活用
- （2）地域文化の伝承
- （3）伝統行事の保存と活用

健康体育部会

部 会 長 磯邊浩二（浜町）

副部会長 高野 仁（緑町）

駅 前	山田真也	赤尾谷	川戸 光	東 町	山田健一
中 町	亀谷高弘	本 町	山根 恵	浜 町	磯邊浩二
灘 町	八東 香	前 町	安藤修久	夏 泊	遠藤 靖
西 町	原田崇司	井 手	徳安 徹	長和瀬	橋本美幸
緑 町	高野 仁	会長推薦	中島伸吾	会長推薦	石井洋介
会長推薦	徳田純也				

基本目標 みんなが健康で生き生きと暮らせるまちづくり

- （1）スポーツ大会を通しての健康増進と地区住民同士や世代間の交流を図る
- （2）健康な身体作りにつながる活動の支援

福祉支援部会

部 会 長 松岡礼子（東町）

副部会長 相見園子（赤尾谷）

駅 前	姫村康栄	赤尾谷	相見園子	東 町	松岡礼子
中 町	高浜信浩	本 町	伊藤絵美	浜 町	長村 徹
灘 町	福市美由紀	前 町	池田清子	夏 泊	長田高弘
西 町	宇多川貴史	井 手	田中 聡	長和瀬	加嶋益代
緑 町	浜師繁幸	会長推薦	高野知加	会長推薦	大谷光恵

基本目標 みんなで助け合い支え合う福祉のまちづくり

- （1）高齢者の安心・安全な居場所づくり
- （2）一般地区住民への啓蒙活動の推進
- （3）親子が安心して楽しめる活動の支援

今後も各部会で話し合いを進めながら、目標に向かって活動していきますので、地区の皆さんのご協力をお願いいたします。



総会を開会する前に青谷町総合支所長様、産業建設課長様に鳥取市の公共交通（路線バス等）の状況、公共交通を取り巻く社会環境、持続可能な公共交通の確保に向けた取り組みについて説明を受けました。青谷町の路線バスの利用者は年々減少しています。また、路線バス運転者の高齢化が進み、担い手不足となっています。このままでは、廃止路線となることが考えられます。将来、誰もが安心して暮らせるためには、それぞれ地域の実情に合った移動手段の施策を検討していく必要があります。

第2章 生活交通を取り巻く社会環境

2 利用者の減少とモータリゼーションの進展

- バスの利用者（観光目的を除く）は減少傾向にあり、年によって変動があるものの、平成20年から平成30年までにおよそ13%減少しています。
- この傾向がこのまま続いた場合、令和12年（2030年）には、年間利用者数は250万人を下回ると予想されます。

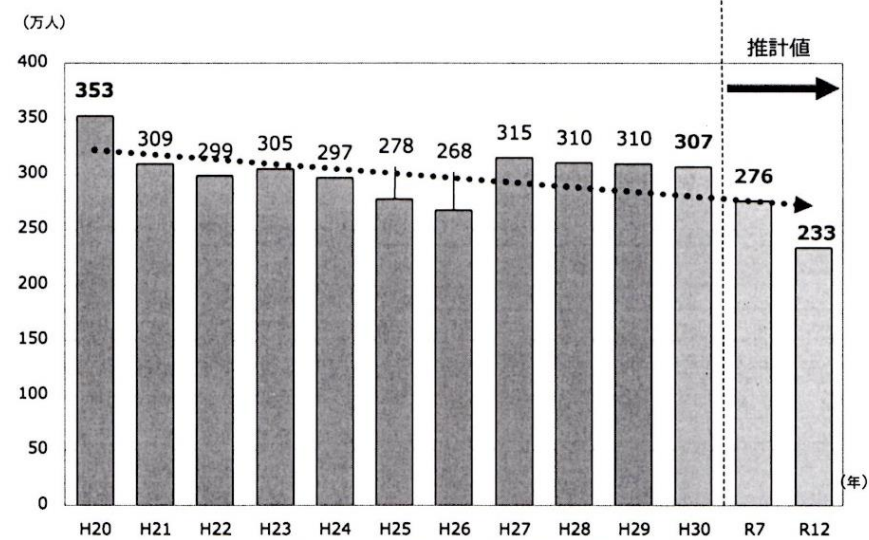


図4 路線バス（生活路線）年間利用者の推移

※H27年は鳥取環境大学の通学対応便の新設により利用者が増加
※R7年およびR12年はH20年からH30年までの利用者減少率を基に推計
出典：市勢要覧（H20からH30まで）

- 生活交通の主な利用者層である高齢者の人口は増加しているものの、高齢者人口に占める運転免許保有者数の割合は上昇しています。また、平成30年2月に実施した市民アンケート調査によると、買い物や通院の目的で自家用車を利用する高齢者の割合が上昇しています。こうしたことから、高齢者数が増加しているにもかかわらず、生活交通利用者は拡大していない（むしろ縮小している）と言えます。
- このことから、今後も自家用車からバス利用への転換が進まなければ、生活交通利用者の減少が続いていくと考えられます。

表1 目的別の利用交通手段（自家用車の利用）

	H20年度調査	H30年度調査
通院先まで自家用車（自分で運転）を使う人の割合	52.1%	59.0%
買い物先まで自家用車（自分で運転）を使う人の割合	66.7%	71.8%

出典：市民アンケート調査結果（平成20年度および平成30年度実施）

表2 市の高齢者人口と免許保有者の状況

	H21年	令和元年
市の65歳以上人口	44,490人	54,100人
免許保有者数(65歳以上)	17,797人	29,381人
市全体の免許保有者数に占める65歳以上の割合	14.2%	23.4%

出典：市勢要覧（H21年の65歳以上人口）、市ウェブサイト（R元年の65歳以上人口）鳥取警察署提供資料（運転免許証保有者数）

第2章 生活交通を取り巻く社会環境

6 生活交通（路線バスや市関連路線）の現状と今後の見通し

- 運転者不足や利用者の減少（収益の悪化）により、本市においても、バスでは減便や路線の縮小、タクシーでは営業時間の短縮や営業廃止といった事態が生じています。
- 平成31年3月に横枕線が廃止された大和地区では、既存のバス・タクシー事業者による代替交通の確保が困難であったことから、地域のまちづくり協議会が運営する「大和ふれあいタクシー」が運行しています。
- 今後の人口減少や高齢化の動向を踏まえた利用者数の見通しと、それらをもとに実施したバス事業者へのヒアリング調査の結果によると、今後概ね5年から10年の間に、路線の縮小や廃止の可能性がある路線は次のとおりです。
- これらの路線については、利用促進を図っていくとともに、各地域の実情に合ったより利便性の高い移動手段の導入に向け、市・交通事業者・地域住民等が連携し、取組を推進していきます。

運行形態	路線名	現状と今後の見通し
民間路線バス	神戸線	● 路線の起点から終点までを乗り通す利用者が少なく、一部区間しか利用しない利用者が大部分を占めている。 ● 沿線の江山地区において、令和2年4月に義務教育学校「江山学園」の開校が予定されているため、令和2年4月以降の利用状況の変化を見る必要がある。 <u>令和2年4月以降も利用者の減少が続く場合は、路線の縮小や廃止の可能性が高い。</u>
	勝部線	● 沿線の小中学校に通学する児童・生徒が利用者のほとんどを占めており、日中の利用が極端に少ない。
	日置線	● 今後、少子化により児童・生徒の減少が続いた場合、 <u>路線の縮小や廃止の可能性が高い。</u>
	八坂線 津ノ井倉田循環線	● 八坂地区・倉田地区の利用が非常に少なく、このままの状況が続くと <u>路線の縮小や廃止の可能性が高い。</u>
市・地域が主体となって運行している路線	南部地域有償バス（鳥取市有償バス） ※佐治線、西郷線、散岐線、江波赤波線、和奈見国英線	● 市が直営で運行している路線であるが、運転者は鳥取市シルバー人材センターから派遣している。 ● 人手不足と運転者の高齢化による影響を受けやすく、 <u>現在の状況が今後も続く場合は、路線の維持が困難になる可能性が高く、緊急性の高い路線である。</u>
	福部循環バス	● 鳥取市社会福祉協議会が運行を担っており、人手不足や運転者の高齢化による影響を受けやすい。 ● このままの状況が今後も続く場合、 <u>5年先以降は路線の維持が困難になると見込まれる。</u>
	乗合タクシー 浜村・青谷線	● 採算性の悪化や運転者不足、運転者の高齢化といった問題が深刻化し、 <u>令和2年3月に廃止を予定している。</u> ● 代替の交通手段として、令和2年4月より <u>鳥取市有償バスによる対応を予定している。</u>